

# 平田ロータリークラブ 週報

発行日 毎週木曜日

平成18年2月9日

No.1551

## 超我の奉仕

国際ロータリー会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー  
第2690地区ガバナー 延原 正

△事務局▽  
島根県出雲市平田町2280-1  
平田商工会議所2F TEL 0853-63-3232  
FAX 0853-63-5365  
A.M. 9:00 ~ P.M.5:00 土・日曜・祝祭日休局

会長 大谷 孝 副会長 加藤喜久  
幹事 内田節夫 会計 加藤昇

## 例会プログラム

例会	卓話者	演題
第1551回	会員 石倉正美	シベリア抑留の話
第1552回	松江市 藤原久子様	今どきの男と女のコミュニケーション
第1553回	国際奉仕委員会	

## 出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前回補正率
50	44	6(1)	89.80	94.00

欠席者 西谷・三代・堀江・持田・原孝(石原恵)

## 幹事報告

- 2006~2007年度地区ガバナーノミニー候補として、鳥居 滋会員(岡山東RC)を推薦されております。当クラブより候補者の推薦がなければ、信任状を送ります。
- 万田の郷より、広報誌「ほのぼの通信」をいただきました。
- 2007~2008年ロータリー財団国際親善奨学生募集について
  - 1学年度国際親善奨学生 若干名申請希望者がありましたら事務局まで(クラブが申請書を受取る最終期日 3/31)

## スマイル

大谷 石倉会員のスピーチ、楽しみにしています。

2月23日例会受付当番

大島 治・吾郷道雄・荒木 貫

★松江南クラブ(月)  
★出雲中央クラブ(月)  
★松江しんじ湖(火) 2/21

★出雲クラブ(火)  
★松江クラブ(水)  
★大社クラブ(水)

★平田RAC(第1・3水)  
★松江東クラブ(木) 2/23  
★出雲南クラブ(金)

## 会長挨拶

18年度予算に係る通常国会が始まりました。今国会は3点セットといわれ、米国産牛肉（BSE）、耐震強度偽装、ライブドアが焦点といわれていましたが、それに防衛施設庁談合問題が加わり4点セットだそうです。防衛庁関係はこれまでも数回の談合問題が発生しています。

防衛施設庁に係るものは1件当たりが巨額です。大型談合です。驚いたことに10年とも20年とも前から談合が行われていたそうです。談合が悪いのは当然ですが、何を誰がチェックしていたのでしょうか？

例えば平均落札率（予定価格に対する業者の落札価格の割合）が殆ど約98%だそうです。これは異常です。素人でも関心をもってみればそれだけからでもそれは不自然と指摘出来ます。みんなつるんでるからこうなるのです。だから「官製談合」といわれます。

またそのチェック（組織）を人よんで「案山子（カカシ）」と言うのです。カカシはご存知の通り田畑に鳥獣をよせつけない様に立てる人形です。鳥でも始めは人であると思い警戒しますが、それが人形であると分かると完全に馬鹿にし無視します。田畑を荒らしカカシにとまりつついたり糞までします。

官製談合は税金の無駄使いだから特に腹が立ちます。

こんなカカシは未だ他にもいるのではないのでしょうか。今日は少し辛口になりました。

## スピーチ

### シベリア抑留の話

会員 石倉正美

シベリアには秋はなく、春夏は短く冬の長い酷寒の地。決して思い出したくないシベリアであるがギリシアの古い言葉に

「君故国に帰りし時、我等がことかく伝え給え かの人達の明日のために、我今日の命を此々に落せり」と言う言葉がありますが、日本に帰りたい、帰りたいの願望も空しく、シベリアの凍土の下に眠る多くの戦友を思うとき、語るべき責務があると思います。

昭和20年8月9日ソ満国境を突破し進入した。ソ連戦車軍団の南下を阻止せんと防戦。石頭予備士官学校の隊員3,600名も8月13日これを迎撃、激戦の末死者多数。8月15日壊滅8月20日武装解除、帰国の指令のもと10月末から翌年21年の夏頃迄に強制連行される。満州、北朝鮮、千島樺太の各地区より615,000人が極東地域、東シベリア、西シベリア、欧州と連行される。

収容所には (1)一般作業大隊の収容所 (2)軍関係の労働大隊の収容所 (3)戦犯容疑者の囚人収容所 (4)中継収容所 (5)送還収容所に区別されている。

小さな収容所は300～500名、大きな収容所は800～1,000名であり、3重の有刺鉄線で囲まれ、四隅の望楼には銃所有のソ連兵が監視している。内側の鉄線の柵に接すれば銃殺となる。

宿舎と言っても誠に粗末な建物である。長さ10m巾6m高さ3mで中央に2m位の通路があり、両側がのべの板敷で2階造りで、これが寝台であり、中央の通路にストーブが1ヶあり、煙突が天井の下を長く配置してある。

然し1階の床は深夜は寒くて眠れない。この様な建物がいくつもあり一つの収容所である。

昭和20年の最初の越冬では零下20度30度の酷寒の中での苛酷な労働、栄養失調等による死亡者続出。埋葬に於いては非人間的な神も仏も恐れぬ埋葬、語るに語れぬ事である。

昭和22年春頃よりソ連共産党中央委員政治部員による洗脳教育が始まる。反共、反ソの言動は重労働その上ノルマに左右される。労働大隊に於ける作業は鉄道作業、伐採作業、その他あらゆる種の重労働である。

これにはすべての作業にノルマ（一日の基準量）がついている。作業の100%以下には食事の減量となる。食事は一食、約200gの黒パン1ヶ、朝、晩はスープ付き。重労働、酷寒、空腹、睡眠不足、栄養失調。人間の生きる上での最悪の環境、最低の生活の中で苦勞し、故国へ帰る事も空しく、シベリアの凍土の下に眠る戦友に安らかに眠って下さいと祈るのみです。